御用部屋にはだれもおりません。静かに午後の日が窓からさしこんでいます。磁石と書類をしっかりと抱いて、豊助のからだはもう動こうとしませんでした。五月二十五日、仕事熱心の豊助らしい最期でした。六十五歳の一生でした。

約百八十メートルの飯盛山の洞門を含めて、新しい戸の口用水路は、のべ五万五千人の人力によってできました。猪苗代湖から若松まで約三十キロ、この水は千八百ヘクタールの田畑をうるおし、町や村の水車をまわし、火災を防ぎ、さらに現在は、会津若松市民の飲料水として、または水力発電にも使われて、私たちの

佐藤豊助の墓(左が豊助、右がれん)